

滝沢遺跡 発掘調査速報 2

竪穴住居（たてあなじゅうきょ）の中はこんな感じ！



甕(かめ)



煙を外に出すための煙道(えんどう)

カマドとは・・・

古墳時代(こふんじだい)以降に、使用されるようになった古代の台所です。

住居の壁側に、石や粘土で組み立てられ、天井部分には、甕(かめ)や釜(かま)などの煮炊きの道具をかけるような穴があります。また、煙を家の外に出すための煙道(えんどう)も作られました。

3号住居跡のカマドの跡

5号住居跡の1つ目のカマド（1号カマド）の跡



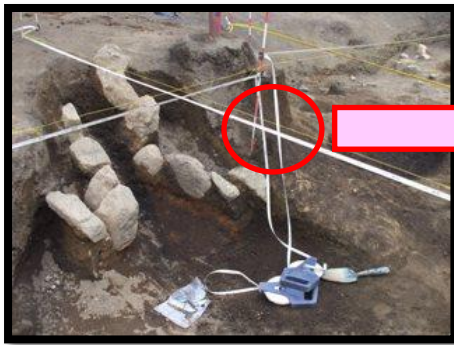
5号住居跡の2つ目のカマド（2号カマド）の跡

4号住居跡のカマドの跡

☆ 3号住居跡のカマド ☆



カマドの石組みが見えてきました。
土の層(土の埋まり方)を観察して記録にとりながら、少しずつ掘り進めていきます。



この部分から、もとは1つだったと思われる土器が割れて出土しました。

カマドの左右の石組みが見えてきました。
発掘される多くのカマドが、原形をとどめていないことから、このカマドのように石組みが残っているのは貴重です。



☆ 5号住居跡のカマド



5号住居跡の1つ目のカマド（1号カマド）です。赤くなっている土の層は、長い間、火を焚（た）いていたことを示しています。

ここからは、下の写真にあるような、カマドで使われていた甕（かめ）という煮炊きの道具が見つかりました。



5号住居跡の1号カマドです。こちらのカマドの石組みは、残っていませんでした。



5号住居跡の2つ目のカマド（2号カマド）です。カマドで使用された土器がたくさん見つかっています。

4号住居跡とそのカマドです。

**10月3日(土)現地見学会を行います！
ここで紹介したカマドの跡を実際に見に来てください！**

